

なきごえ



1975

12

大阪市
天王寺動物園協会

動物と私

園内散策 團 伊玖磨

動物園が好きになったのは大人になってからだ。丁度大人になりかゝりの頃、僕は上野の音楽学校に学んでいて、戦争中の事として、食事も儘ならなかった昼休みを、殆んど毎日地続きだった上野動物園で過ごした。音楽学校から隣の美術学校の庭を抜けると、垣根一つで動物園に越境出来る秘密の場所があって、そこからそと動物園に忍び込む方法を僕は知っていたのである。そそっかしい美術学校の友人が、その秘密の通路を間違えて、垣根を飛び越したら、向う側の猪の運動場に飛び降りてしまい、慌てふためいて柵によじ登って逃げたりした漫画のような事件もあった。

戦争がだんだんにひどくなって、上野の動物達は殺され、豚とか鶏とかだけが飼われていた昭和十九年から二十年にかけての園内を悲しく歩いたりした思い出も、だから僕は持っている。

戦後も僕の動物園好きは続いて、三十年の間に、僕は日本中の、そして世界中の動物園を歩き続けて来た。演奏旅行に出ると、演奏は殆んどが夜だから、昼が空いて自由の時間が持てるために、新しい街に着くと、必ず動物園を訪ねるし、そうしているうちには、色々な街の園内の動物に顔見知りが出来たりして、又その街に行くと、あの熊は元気かな、あのジラフの子は大きくなったかななどと思って又訪ねる事になるし、外国でもその習慣は抜けないから、もう随分と方々の国々の動物園も訪ねた。世界最古と伝えられているフランクフルトの動物園、これも歴史が古く、マリア・テレシアの頃の飾りのある檻に豹などが寝そべっているウィーンのシェーンブルン城内の動物園、檻の無いハーゲンバックの、又ベルリンの、パリの、天王寺のように真中を道路が横切っているロンドンの、パリ、ニューヨーク、シカゴ、コアラを抱かせて貰ったシドニーの、等々、眼を閉じると、それぞれの国の、街の動物園が一つ一つ思い出されて来る。

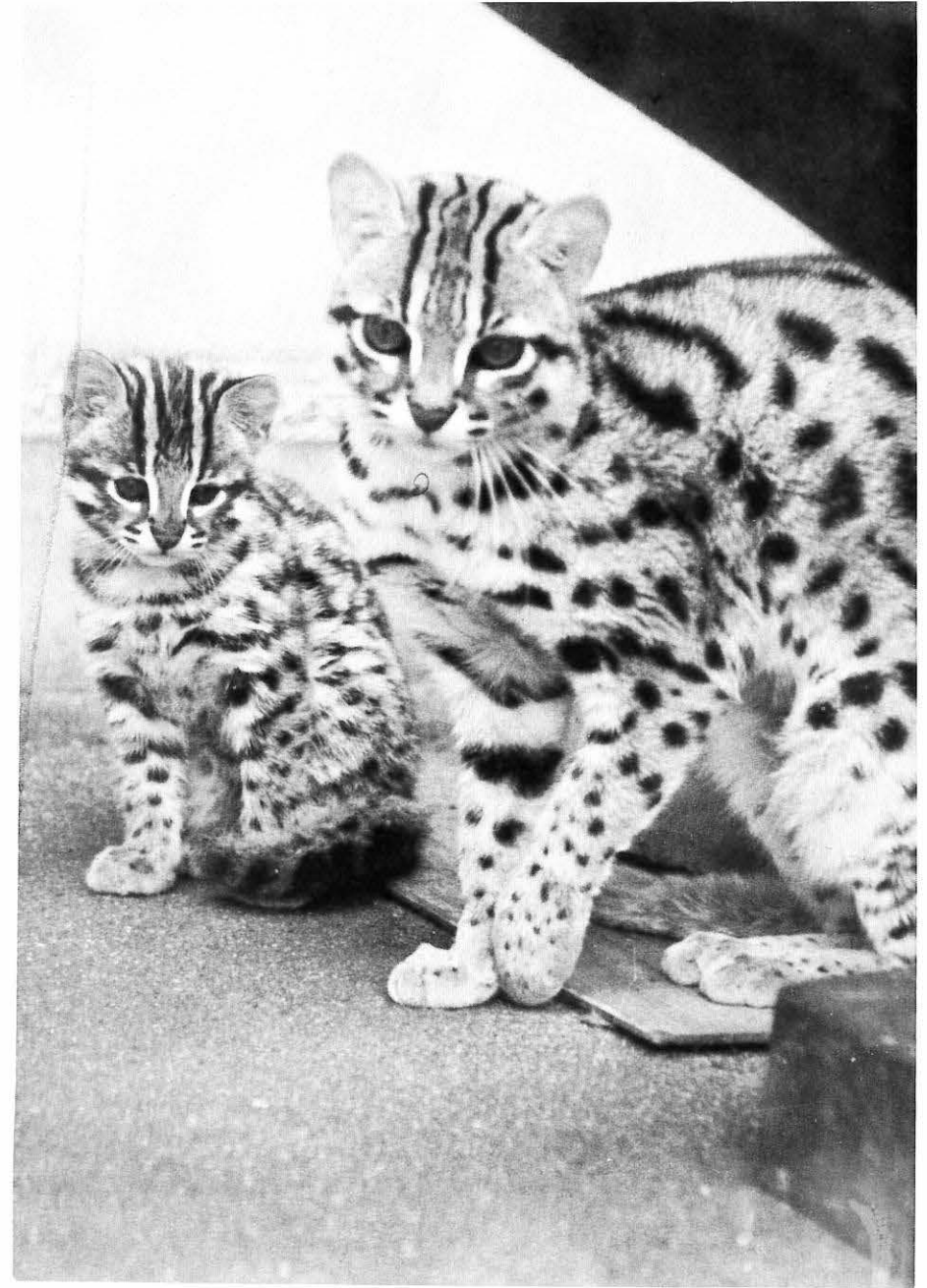
1966年、僕は初めて北京に行った。そして、先ず駆け付けたところは動物園だった。パンダと四不像が見たかったのである。未だパンダ・ブームが日本に起こるずっと前だった。その頃の北京動物園にはベビーちゃんのパンダも居て、そのベビーに笹をやったり撫でたりした思い出は新鮮である。

沢山の動物園を散策しているうちには、面白い経験も沢山した。ミュンヘンの動物園を戦後すぐに訪ねた時、アフリカ象の子供が飼われているというので、それを見に二、三人の日本人留学生と一緒に出

かけたのだが、象を見た後で何気無く猿の檻が並んだ前を通り掛かると、猿達が突然我々日本人を意識して騒ぎ出したのである。並んだ猿舎には幾種類かの猿達がそれぞれ入っていたのだが、前を通る我々を見てその皆が奇声を上げて騒ぐので、我々は驚いて、右に歩けば猿達も右へ、左に走れば猿達も左に動き、遠のけば猿達は檻の上方に登ってこちらを眺め、全く大騒ぎなのである。余りの猿達の騒ぎに、周囲に大勢居たドイツ人達は猿達の視線を辿って我々の存在に気付く、戦後日本人が未だ珍しかった上に好奇心の強いドイツ人達は、目引き袖引き、ヤパーナ、ヤパーナと我々を取り囲む始末で、我々は猿とドイツ人達の視線に疲れ果て、退散したのだった。これと同じような反応を、その時は一人だったがエデンバラの動物園でもマンドリルにされたので、猿や狒々が人種を識別する能力を持っているらしい事を僕は不思議に思いながらも信じている。一説に依れば、それらの動物園の猿舎の飼育係がマレー人か中国人で、その猿達が東洋人に対して独特な感覚を持っていたのではないかと言う人もいるが、どうもこれは、専門家に意見を訊ねなければ判らぬ問題である。

これは人種の識別では無いが、ある時、子供を連れて横浜の野毛の動物園を歩いていてハイエナの檻の前に来たら、突然一頭のハイエナが僕の顔を見るや怒り心頭に発したらしく檻の中から吠えかゝり、恐しかった。そのハイエナは僕の事を余程嫌いだったらしく、園内を散策して、又同じ檻の前に来ると再び僕に向かって檻の向こうから襲いかゝるのだった。色々と実験してみたが、子供には全く反応を示さず、僕にだけ怒るのである。これは人種ではなく、個人を識別する例と思って面白かったが、何故ハイエナが僕を嫌ったのかは今もって全く判らない。これも専門家に訊ねてみたい事である。

動物園は僕にとって大好きな思案の場である。憩いの場でもある。未だ未だ僕の園内散策はずっと続きそうである。
(日本芸術院会員)



“ベンガルヤマネコの赤ちゃん”

今年8月6日に生まれました。当園では初めての出産です。ヒョウのようなきれいな斑紋があるところからヒョウネコとも呼ばれます。

なきごえ12月号もくじ

動物と私	2
ベンガルヤマネコの赤ちゃん	3
動物園グラフ	4・5
この一年をふりかえって	6～10
動物園ニュース	11

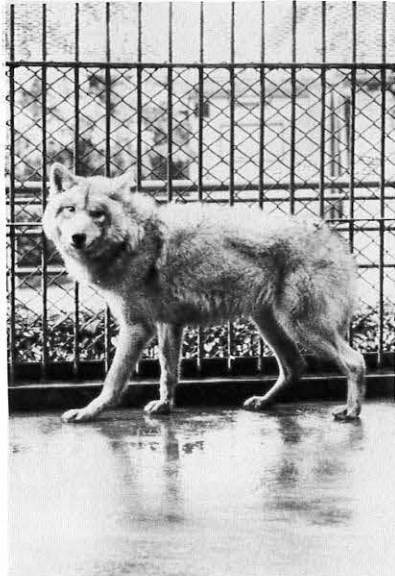
表紙の写真説明

“ミーアカット”
南アフリカ産の動物でジャコウネコのなかまです。後足で立ちあがったりして非常にあいきようのある動物です。

動物園 グラフ

“せいぞろいしたオオカミの仲間たち”

中獣舎には今、4種類のオオカミとジャッカル、コヨーテの計6種類のイヌ科の動物がそろっています。今回はこれらの横顔をグラフで紹介しましょう。 <写真の動物は全部オスです>



← シベリアオオカミ
今年の11月17日、札幌円山動物園から贈られて来ました。白っぽい毛色が特徴です。



← チョウセンオオカミ
別名、ヌクテともいわれます。



↑ コヨーテ
今年の10月2日、米国サンディエゴ動物園から贈られて来ました。耳が大きいのが特徴です。



↓ ジャッカル
この6種類の中では一番小さく、一見、キツネに似ています。



→ シンリンオオカミ
今年の2月1日米国サンディエゴ動物園から贈られて来ました。この中では今一番大きなオオカミです。



→ クロオオカミ
中国オオカミの黒変種でチベット地方にすむ珍しいオオカミです。昨年中国上海動物園から贈られて来ました。

10・11月の動物園日記

- 11/2. クロヒョウが2頭生まれました。ミズナギドリが2羽保護されて来ました。
- 3. タヌキが2頭保護されて来ました。1頭は車にはねられたらしく右後肢を骨折しており、すぐ治療してやりました。
- 4. ヤギのオスが胃の中にビニール袋を一杯つめて死亡するという痛ましい事故がありました。

- ボウシテナガザル1頭の寄付がありました。
- 5. ヌートリアのオスが1頭入りました。
- 6. エゾシカのオスがオリックスに角で突かれて死亡しました。
- 8. キリンが生まれました。今度の仔はメスで哺乳も良好です。バーバリーシープが2頭生まれました。
- 9. ホーブラが疝痛を起こしているので治療しています。
- 13. アナコンダが肺炎を起こして死亡しました。

- マレーバクが左前肢をいためてびっこをひいているため治療しています。
- 14. 11月2日に生まれたクロヒョウの赤ちゃんは2頭共残念ながら死亡しました。母親のお乳の出る量が少なかったためようです。
- 15. ハイイロカンガルーのオスが急死しました。
- 16. ケープペンギンが抱卵していますが、1羽が元気をなくしているため、栄養剤をまぜてさし餌をしています。
- 17. ヤギが2頭生まれました。

- ヌクテのオスが右前足をあげているため麻酔して調べたところ、肘関節が脱臼していました。ギプスで固定して治療中です。
- 札幌の円山動物園からシベリアオオカミ(オス)1頭の贈物がありました。
- 21. カニクイザル2頭の寄付がありました。
- 27. キノボリカンガルーが尿管結石で死亡しました。
- 28. トカラヤギが出産(1頭)しました。
- 29. 韓国の昌慶苑動物園からワシミミズク2番いとチョウセンヤマネコ1番いが贈られて来ました。

この一年をふりかえって

1975年ももう終わろうとしています。今年最後の「なきごえ」として、今年1年をふり返って思い出を新たにしてみることにしましょう。

☆1975年生まれ動物達

今年も数多くの動物が誕生していますので、その主なものを御紹介しましょう。

昨年より袋の内に入っていたアカカンガルーの赤ちゃんは1月早々袋の中から出て来るようになり、新年の赤ちゃん誕生のオ1号を記録しました。

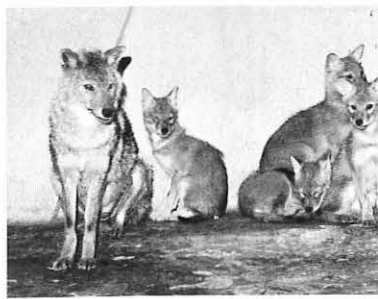


3月4日にはエチオ

ピアライオンが2頭（オス、メス）誕生しました。母親は4度目のお産です。



3月20日にはジャッカルが3年連続出産しました。今回はオス2頭、メス3頭で順調に育ちました。

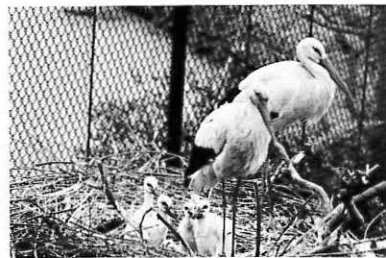


3月28日にはカバが出産しました。母親は4度目のお産で、今回の仔（オス）は大ちゃん



と名付けられました。4月に入るとオメダタが相つぎ、4日、5日に、バーバリーシープが計3頭誕生したのを始めとして16日にはハナグマが5頭（3頭は惜しくも死亡）生まれ、22日にはニホンザルが1頭生まれました。

4月20日には鳥類のトップをきってアオサギが4羽ふ化し、続いてシユバシコウが5月5日に3羽ふ化したのを始めとして5月28日までに計7羽もふ化育成し、水禽放養舎はが



ぜんにぎやかになりました。又、5月5日にはカナダガンが人工でふ化し、これ又、すくすくと育ちました。



フラミンゴは5月18日に1羽ふ化し、6月30日までに計7羽もふ化育成するという動物園始まって以来の記録を作り、フラミンゴ放飼場も手ぜまに感じられるほどになりました。

ニホンシカは5月26日に1頭誕生して以来、全部で6頭生まれ、3頭が無事成育しました。

6月3日にはシマウマ（オス）が生まれました。ここ4年間毎年1頭づつ誕生しており順調な繁殖ぶりです。



カモシカ園ではエゾシカが4頭、ハナシカが5頭生まれ、6月9日にはエランド（メス）とブラックバック（オス）が各1頭生まれました。又、7月にはスプリングボックも2頭誕生しており、カモシカ園の出産ラッシュが続きました。

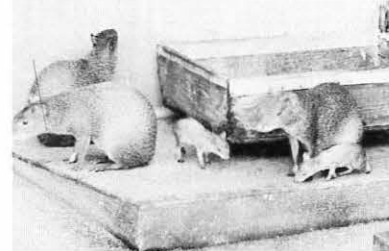
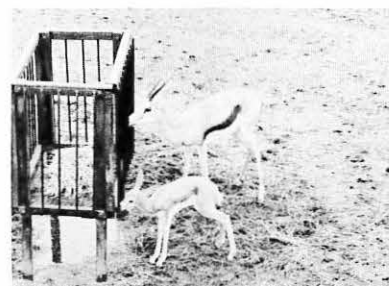
6月9日、14日、22日にはアシカが各1頭生まれ、毎月の体重測定でも順調な育成ぶりを示しています。

昨年2頭誕生したアグーチは、今年も6月24日に2頭、7月24日に1頭と計3頭生まれ、繁殖も軌道にのっています。

7月26日にはライオン4頭（オス3、メス1）が生まれました。母親は過去24頭の仔を育てているベテランで今回もじょうずに育てています。

8月2日にはスジオナメラがふ化しました。8月24日までに計5頭ふ化しましたが、2頭は惜しくも死亡しました。この繁殖は日本では初めてのなので、無事成育して欲しいものです。

8月4日にはオオゾルが1羽ふ化しました。（ふ化日数34日）ここ数年卵を産



んでもすぐ親がつつきこわしていたのですが、今年はいまうまにかえしました。

8月6日にはベンガルヤマネコが当園で初めて誕生しました。3頭生まれたのですが惜しくも2頭死亡してしまい、残る1頭が元気に育っています。

8月にはハイロカンガルーの赤ちゃんが袋から出て元気にね回るようになりました。ここ数年うまうま育たなかったのですが、今度こそはという努力が実りました。



9月28日にはブタオザルが1頭生まれました。母親は初産だったので心配でしたが、うまうま育っています。

10月にはアカカンガルーが今年の1月に続くおめでたで、赤ちゃんが袋から出るようになり、カンガルー放飼場にぎやかになりました。



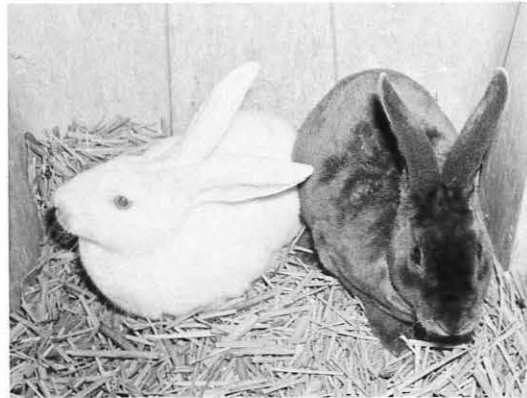
11月に入って8日にキリンが生まれました。母親は3度目のお産で、母子共健康状態は良好です。又同日、バーバリーシープが2頭生まれており、今年はいまうまにかえしました。寒さが心配でしたが順調に育っています。



☆1975年に新しく入園した動物達

今年も珍しい動物が数多く入りましたが、その内のいくつかを紹介してみましよう。

哺乳類ではウサギ年にちなんでアンゴラ、ヘメリン、レッキス、オランダミニという4種のウサギが入りました。



7月15日には当園では戦後初めてのマレーバクが入りました。1才半のオスで、まさにわんぱく坊主といった感じで走り回っています。

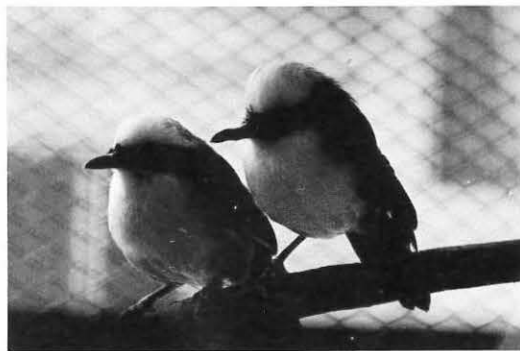


8月にはミーアカットという日本では静岡の日本平動物園にしか居ないという珍しいジャコウネコの1種が3頭入りました。あちこちに穴を掘ったり、後足で立ちあがったりで、非常に愛きょうのある動物です。その他ブラックバック、ヌートリアが各1頭入りました。

鳥類では22種類もの鳥が入りました。シマアジ4羽、コガモ1羽、カワウ2羽、クロトキ3羽、セイケイ4羽、コサイチョウ2羽、フンボルトペンギン2羽、ヒムネバト1羽、ミカドバト4羽、キンバト4羽、ハクオウチョウ5羽、ハクトウツグミ2羽、ルリコノハドリ2羽、ハッカチョウ1羽、オキナインコ、ウロコメキシコインコ、クロカミインコ、ワ

カナインコ、ツキノワインコ、白色オカメインコ、ダルメインコ、キエリクロボタンインコ各1番です。これらの鳥類は日本の冬を迎えるのがほとんど初めのため、この冬の健康管理には十分な注意が必要です。

ハ虫類ではヘビクビガメ1頭、



ムツアシガメ1頭、ギリシアガメ2頭が入りました。

☆1975年の交換動物

昨年は中国の北京動物園、上海動物園と動物交換をしました。今年も開園60周年ということでアメリカのサンディエゴ動物園、リンカーンパーク動物園、韓国の昌慶苑動物園と動物交換を計画しました。サンディエゴ動物園からは1月末にシンリンオ



オカミ、10月2日にコヨーテ各1番の贈物があり、当園からは来年タヌキを贈る予定です。

シカゴのリンカーンパークからは10月8日にカナ



ダヤマアラシ1番いが贈られて来ました。このカナダヤマアラシは普通動物園で見られるヤマアラシとちがい、木に登ったりするキノボリヤマアラシ科の珍しいヤマアラシです。当園からはニホンザル1番いを贈りました。

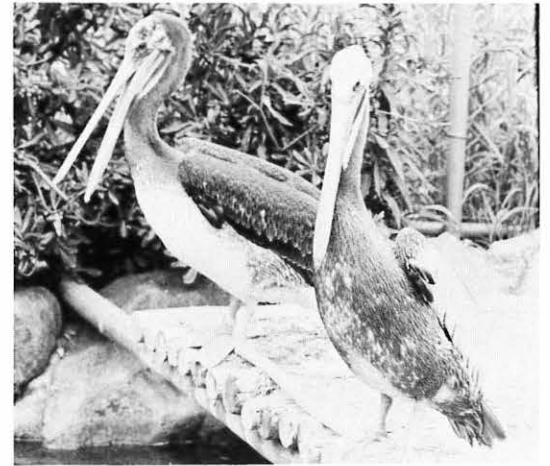
昌慶苑動物園には当園から10月末にシュバシコウ2番を贈り、11月29日、昌慶苑からワシミミズク2番い、チョウセンヤマネコ1番が贈られて来ました。

☆1975年に寄贈を受けた動物

今年も多く貴重な動物を市民の方々から頂きました。その寄贈動物、保護動物は今年1月から11月末までで320件、82種、418点の多きに達しています。その内、主なものをあげてみますと、

哺乳類ではキンカジュ、ビントロング、リスザル、ボウシテナガザル各1頭の寄付があり、それぞれ当園に居るものとペアを組ませることができました。又、マレージャコウネコ1番いの寄付もあり、今後の繁殖が楽しみです。その他、アナグマ2頭、タヌキ4頭、ミドリザル1頭、ボンネットザル1頭、ニホンザル2頭、ブタオザル1頭、カニクイザル4頭などがありました。

鳥類ではカッシュクペリカン1番い、キバタン、



ショウジョウインコ、ミヤマカンムリクマタカ各1羽などの寄付がありました。



ハ虫類ではメガネカイマン3頭、ギリシアガメ2頭、アカミミガメ10頭などの寄付がありました。保護動物ではなんといってもオオミズナギドリが



多く32羽もありました。その他、ツバメ、モズ、アオバヅク、フクロウ、トビ、クイナ、コジュケイ、ヨタカ、タシギなど枚挙にいとまがないほどの多くの保護動物がありました。



☆1975年に死亡した動物

生あるものは必ず死す、とのたとえがありますが今年も残念ながらいくつかの貴重な動物が亡くなっています。

まず1月27日にオリックスの老メス(14才)が寄生虫症で死亡しました。2月1日にはオオアリクイが腎炎と大腸炎をおこして死亡しました。

2月6日には野犬がカモシカ園に侵入して8頭ものブラックバックが殺されるという痛ましい事故がありました。

3月20日にはチョウセンオオカミが生まれましたが、懸命な人工哺育にもかかわらずうまく育ちませんでした。

6月23日と9月24日にはリカオンが肝臓がんと胃潰瘍でそれぞれ死亡し、日本では東山動物園に居る1頭だけになりました。

9月8日にはライガーが初誕生しましたが、係員泊りこみの人工哺育もむなしく1週間で死亡しました。



11月27日には6年近く飼育していたキノボリカンガルーが尿管結石のため尿毒症をおこして死亡しました。

☆1975年の主なできごと

- ◎ 1月1日：大正4年1月1日開園以来、丁度満60年を迎える。
- ◎ 1月1日～1月15日：エトにちなむ世界のウサギのオモチャ展開く。(16ヶ国 200点のウサギのオモチャ展示)
- ◎ 3月21日：動物慰霊祭行う。
- ◎ 4月6日：地方統一選挙を前に選挙啓発を目的として動物による模擬投票実施。
- ◎ 4月末：野犬侵入防止のため外周サク補強工事完成。
- ◎ 4月27日～5月11日：春の動物園まつり開幕
オランウータン、チンパンジーの演技、動物無料相談所、動物の目方を測る会、ライオンのペットネーム募集など。
- ◎ 5月5日：動物の目方を測る会開催
エチオピアライオン9kg、8kg、チンパンジー(3才)14.5kg、ヘビ(ボア)3.5kg、キングペンギン11.5kg、ゾウガメ49kg
エチオピアライオンのペットネーム募集：
オス(ポポ) メス(ロロ)
- ◎ 5月8日～末：中川園長、ヨーロッパ、米国の動物園視察。
- ◎ 6月1日：メンヨウの毛刈り行う。
- ◎ 7月2日：キーウイ来園満5周年迎える。
- ◎ 7月7日：ヒョウ脱走するも無事収容。
- ◎ 8月1日～3日：才1回サマースクール開講
(小学生高学年30名参加)
- ◎ 9月24日：動物感謝祭行う。
- ◎ 10月1日：ボイラー火入れ式。
- ◎ 10月10日：60周年記念行事開会式行う。記念行事11月16日まで開催
- 「世界の動物園展」：21ヶ国51園から収集した写真、ポスター、ガイドブック、絵葉書など展示。
- 「目で見る60年のあゆみ展」：開園以来の歴史を60枚の写真パネルで展示。
- 展示館、記念ひろば完成。
- 記念写真コンクール：応募総数 483点。
- 動物人気投票：①ゾウ②キリン③ライオン④トラ⑤ペンギン
- カバの赤ちゃんペットネーム募集：
「大ちゃん」に決定。

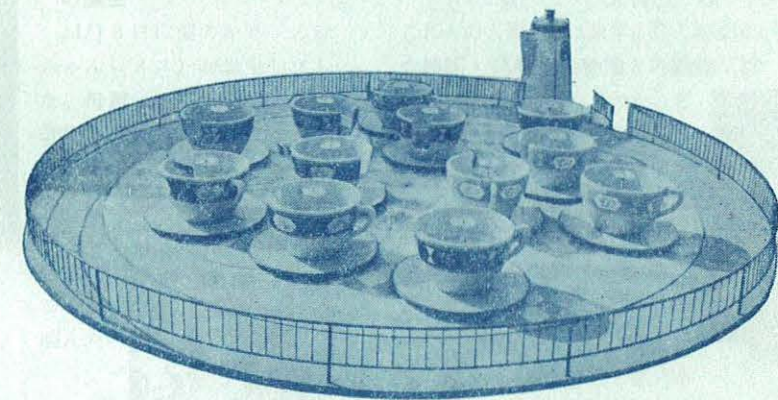
夢が広がるショッピング…… 近鉄がお届けします

上本町近鉄 TEL.(06)779-1231 アベノ近鉄 TEL.(06)624-1111 奈良近鉄 TEL.(0742)33-1111

東京近鉄

近鉄

遊園施設委託経営・製作・販売

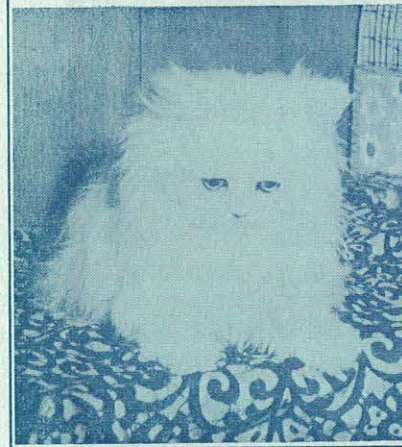


久竹 娯楽 株式会社

本社工場 大阪市西区南堀江通3-40
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

世界の猫、小鳥と愛玩動物専門店

はく製製造卸・直輸入動物取扱い店
各国、犬種・シャム猫・ペルシヤ猫



大阪市南区心斎橋 1丁目38

⊗ そごう 鳥獣部

そごう百貨店屋上 直通TEL

大阪06(252)5497
(241)9146
大阪06(271)2221
内線 2554

動物園ニュース

☆オオミズナギドリの保護

例年11月に入るとオオミズナギドリが保護されて来ますが、今年も11月2日に2羽保護されたのを始めとして11月18日までに30羽ものオオミズナギドリが大阪府下のあちこちから保護されて、当園に持ち込まれて来ました。オオミズナギドリは日本近海で繁殖して冬季はオーストラリア付近まで渡る海鳥で、



天然記念物にも指定されています。10、11月頃に日本から飛び立つわけですが、体力のないものが途中で墜落して保護されて来ます。当園では小アジに栄養剤をまぜて体力の回復をはかっており、11月21日、元気になったものの内10羽を神戸王子動物園の9羽と共に全日空で沖縄へ運び放鳥

しました。

☆シベリアオオカミ来たるノ

11月17日、札幌の円山動物園よりシベリアオオカミ(オス)1頭の贈呈がありました。白っぽい毛色のオオカミで早速、中獣舎の一角に展示しました。これで4種類のオオカミが一堂にそろったわけです。

(グラフ参照)



☆キリン・バーバリーシープの誕生



11月8日待望のキリンの赤ちゃん(メス)が誕生しました。母親(キリー)はこれが3度目のお産で、うまく育てています。名前もリツ子とつけられ、運動場を元気に走り回ったり、昨年の6月に生まれ

たお兄さんのギンちゃんや昨年3月生まれのいとこのキンちゃんたちと仲よく遊んだりしています。

又、同日バーバリーシープも2頭誕生し、今年4月に生まれた3頭とあわせて計5頭になり、バーバリーシープ放飼場も大にぎわいです。



☆寄付動物

10月28日、ビントロング1頭(メス)の寄贈がありました。これは4月に和歌山に入港していたタン



カーから逃げ出したものらしく、拾得者の富士興産から6ヶ月の時効後、正式に寄贈を受け、当園に

いるオスと早速一緒

にしてやりました。11月4日には珍しいボウシテナガザル(メス)の寄贈がありました。

☆60周年記念写真コンクール入賞者決定!!

60周年記念行事の一環として行なわれていた「写真コンクール」の入賞者が決まりましたのでお知らせ



ます。(応募作品総数 483点) 推薦作品
推薦(大阪市長賞)都島区 小川安雄「暑い初秋の水浴」
特選(大阪市公園局長賞)尼崎市 西沢重男「コンドル」
入選(天王寺動物園長賞)岸和田市 井上信義「鳩とタテガミヒツジ」
〃 大正区 藤原明代「おねだり」
〃 福島区 山下道雄「走るクマ」
佳作 寝屋川市 藤原マサオ 他9名
ファミリー賞 大正区 辻 雅一 他14名

これらの入賞作品は来年1月に展示館で展示の予定です。

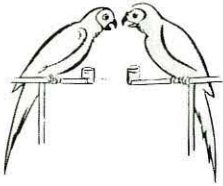
☆韓国・昌慶苑動物園との動物交換

60周年記念行事の1つとして推し進めていた韓国との動物交換が成立しました。10月末に当園からシュバシコウ2番いを贈りましたが、その返礼として韓国の昌慶苑動物園から11月29日、チョウセンヤマネコ1番いとワシミミズク2番いが贈られて来ました。チョウセンヤマネコは2頭共まだ若い個体で小獣舎に展示しました。ワシミミズクは前からいるワシミミズク1羽と共にフクロウ、コミミズクらと一緒に収容しました。



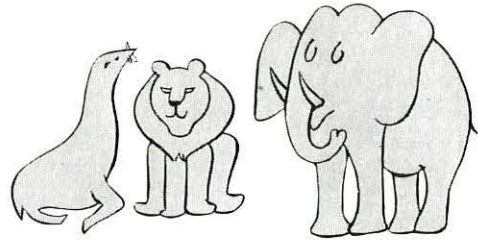
◎お知らせ 12月29日～1月1日の間は年末年始の休園日です。御了承下さい。

なきごえ 昭和50年12月15日発行 (毎月1回15日発行) 第11巻第11号(通巻124号)
 編集/大阪市天王寺動物園 〒543 大阪市天王寺区玉水町2
 発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳 電話 大阪 (06)771-0201
 印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部)1,100円(送料共)
 振替口座 大阪 37823



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員 小谷 潔・林 邦彦・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗・農本 武志
 深井 和美・東 政宏・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・児玉 敏雄